

りて、例年他方の洪水のごとく、常に南風に水増り、北風に水減す、是は南より北の海へ落る川ゆゑなり、かくのごとく、毎度洪水あり、其上に急流なれば常體の橋を懸る事叶ひがたき川なり、されば舟橋を懸渡すことなり、先東西の岸に大なる柱を建て、その柱より柱へ、大なる鎖を二筋引渡し、其鎖に舟を繋ぎ、舟より舟に板を渡せり、其舟の數甚多くして、百餘艘に及べり、川幅の廣き事おもひやるべし、其鎖のふとく、丈夫なること誠に目を驚せり、鎖の真中二所程繋ぎ合せし所ありて、其所に大なる錠をおろせり、洪水の時切る所なりと云、兩岸の柱のふときこと大佛殿の柱よりも大なり、追々にひかへの柱ありて、丈夫に構へたり、鎖につなぎて舟を浮めたることゆゑに、水かさ増るといへども、其舟次第に浮上りて危き事なく、橋杭なきゆゑ橋の損することなし、然れども誠に格別の大洪水の時は、此舟の足にせかれて、兩方の町家へ川水溢れのぼるゆゑに、やむことなく、此鎖の中程を切ることなり、其舟左右に分れて水落るゆゑ、水かさ減ずることなり、然れども此鎖を切る時は跡にてまた鎖を繼事、莫大の費用あるゆゑに格別の洪水にて、町家の溺る、程の時ならでは切る事なし、此舟橋も亦一奇觀なり、もろこし黄河などにも晉の時分、舟橋を懸られしといふ事聞及べり、いかなる大河急流なりとも、用ゐらるべき橋なり、越前福井の舟橋○中又奥州南部の城下にも舟橋あり、是も大なれども、越中の船橋に不及、舟橋のある所天下に右三箇所なり、其内越中を第一とすべし、

〔遊囊贖記 二十四〕婦負川ハ鵜坂川ト同ク今ノ神通川ナリ、但一ハ郡名、一ハ地名ニ因テ稱ス、造舟ノ數、水勢ノ急、何レモ越前ニ倍セリ、

立山藤橋

〔和漢三才圖會三十四〕棧○中

同○越國立山麓岩倉川上有大橋、長凡百三十丈、無柱用藤蔓爲桁、布板於其上、他邦人輒不得渡、俗

呼其川曰三塗、大河南有山名死出山、蓋立山巔有火氣、俗以爲地獄、故好事者稱三塗川、死出山等